

「Prelude 天使が生まれた日」

作／井伏銀太郎

概要

分娩室で今まさに子供が生まれようとしている

父親が産まれてくる子供に向けてのビデオメッセージを撮影している 一人芝居

あらすじ

若い夫婦に初めて子供が授かった

出生前診断の結果、子供にダウン症の障害があると分かった中絶という選択も考えたが

母親になる妻が両親から聞いた話「天国の望遠鏡」

天国には世界中が見渡せる「不思議な望遠鏡」があつて

これから生まれてくる子供達はそれを使って、世界中からたつた1組の

両親を選んで産まれてくる。

たとえ障害がある子供からでも自分たちは選ばれた両親なのだ。

そう信じた男は「知ることは理解すること、知らないことから様々な差別や偏見が生まれる」

そう思いダウン症の子供を持つ親を訪ね、知ることによって

理解し、また子供の障害のお陰で夫婦は「命」について「生きるという事」について話し合いより深く結びついてきた。

まさに産まれる時、分娩室の傍のロビーで一人ビデオカメラに向かって

これまでの出来事を振り返って、段々と子供と会うのが楽しみになった自分を語る。

しかし 産まれる寸前

中絶の選択も考えた自分が本当に自信を持って子供を育てられるんだろうか

迷いが生じ、ビデオ撮影を中止しようとするが

自分の弱さや迷いの部分を編集してカットして伝えようとした自分を恥じ

すべて編集せずに伝えようと決心する。

そこに分娩室から大きな産声が響く

登場人物

男 (ダウン症の子供が産まれてくる父親)

総合病院の産婦人科分娩室の傍のロビーのベンチ

男がビデオカメラ、若しくはスマートフォンを三脚にセットしてベンチに座りカメラに向かって話している

P 1

(咳払い) えーっと、あの…こんにちは…こんにちはってのは変かあーっ、はじめまして…かな、

(ビデオスイッチを止めて、またつけて)

えーっと…はじめまして…俺です、俺って言うのもおかしいな親父です…ちよっと硬いか。お父ちゃんです…柔らかすぎだよパパです…似合わねー…父さん…これがいいか

俺も父さんの事、父さんって呼んでたからな

ああ、もうちよと早く原稿書いてれば良かったなー
しょうがない、少し出産が早まったから

(時計を見る)

まあ、原稿がなきゃ、ないなりにライブ感で勝負だ、誰と戦ってるんだもう一回(ビデオスイッチを止めて、また入れる)

えーっ、はじめまして・・・あの、父さんです

「あの」とか、「えーっ」とかいらないな、もう一回初めから
はじめまして、えーっ、父さんです、「えーっ」とって言っちゃった

(ビデオを止めようとして)

あ、そっか、撮り直さなくても、後で編集すればいいんだ

じゃあ・・・テイク2、なんか本格的だな、テイク2

(気取って)はじめまして、父さんです・・・気取る必要ないか

えー、ここは仙台の青葉区にある、宮城総合病院、産婦人科病棟
えーっ、第2分娩室の脇のロビーです、少しくどいか

現地レポートじゃ無いんだからな

テイク3 はじめまして、父さんです

いま、その分娩室で母さんは、君を産もうと頑張っています

(時計を見てから、分娩室を伺う)

はじめに・・・このビデオは大人になった君にむけて

君が生まれる時、その瞬間、父さんや、母さんが、どんな思いで

君を、この・・・世界へ迎えたのか、それを知ってもらいたくて

そして、何より、今の父さんの思いを、自分がずっと、ずっと忘れない為に

ビデオ撮っています・・・未来の俺、見てますか？(手を振る)

P2

えーっ、何から話せばいいのかな

父さんと母さんの、出会いのきっかけは、ものすごい偶然でした

一本の間違い電話から始まりました・・・それは、いずれ、ゆっくり話すとして

で、結婚しました。簡単過ぎるかな？結婚して2年、やっと君が授かりました初めての子供です、二人でどんなに喜んだかわかりません

妊娠が分かかってしばらくして出生前診断というものを勧められました僕は、いや俺は、男の子か女の子かは、生まれてくるまでの楽しみにとっておきたかったんだけど

母親の体の為にも検査を受けたほうがいいって言われ、検査を受けましたそれで君が・・・男の子だと言うことと

(間)そして・・・ダウン症の疑いがあると言うこと

産婦人科の先生から、ダウン症は千人に1人

40代の出産では10人に1人の割合で生まれると

染色体の異常で主に発育不全を引き起こす障害がある

先生は言いました、残念ながら、子供がダウン症というだけで

9割以上の両親が中絶を希望しています。それでも

数パーセントの両親は不安と闘い、産む決断をしています。

とにかく、二人でゆっくり話して下さいそして、どんな結論が出ようと

二人で、よく話し合っただけ結論が、お二人にとって正しい結論です

ただ、もし中絶という道を選ぶのなら中絶が可能な時期がありますのであるべく早く結論を出してください

「自分の子供に障害がある」頭の中が真っ白になり目の前が、真っ暗になりました・・・どっちなんだよ！

これじゃあ、明るいのか、暗いのか分かんないな
もう一度。(カメラに向かい)

・・・先生からその話を聞いたときはひどく動揺してしまいました
どうしたらいいのか、じっくり話し合って、と言いながら
早く結論を出さなくちゃいけない？矛盾してないか
いろんな思いが頭をぐるぐる駆け巡りました

自分達に障害を持った子供を育てられるんだろうか

9割以上の人が、中絶という結論を出すのなら

それもしようがない・・・考えなかったといえど嘘になります
・・・こういうネガティブ発言はカットした方がいいかな

P 3

続けます、帰りの車の中で、父さんと母さんは、ずっと黙っていました
しばらくして母さんは、こんな話をしてくれました

その話というのは母さんの両親、つまり君のお爺さんとお婆さんが
母さんが子供の頃してくれた・・・「天国の望遠鏡」という話です

天国には、この世界の一番高い山のとっぺんから、一番深い海の底まで
見たいものは、どこでも、何でも、見られる不思議な望遠鏡があつて
亡くなった人達は、天国で、この不思議な望遠鏡で

残された家族の姿を眺めては、幸せを祈っているんだって。

その不思議な望遠鏡は、亡くなった人達だけではなく

これから生まれて来る赤ちゃん達も使っていてね

その望遠鏡で世界中を見渡して、自分両親を探しているんだって。

赤ちゃんは、世界中の人間の中からたった一人の男と

たった一人の女を自分の親に選んで、この世界に生まれくるんだよ。

お母さんは、本当に自分の両親の元に生まれて良かったと思っているって
さすが、自分が選んだだけの親だって思ってるって

ねえ、この、お腹の子が何十億人の中からたった1組の親として

私達を選んでくれたんだから、どんな事があっても・何があっても

この子を精一杯育てましょう。

そう、本当に静かに、力強く話してくれたんだ。

俺は、何も言葉はなかった、もうお母さんの気持ちは固まっていたんだ

やっぱり 女は、母親は強いなー

女性はお腹の中で、ゆっくり子供を育てながら

確実に、母親になっていくんだよな

くらべて、俺は、父親っていうのは子供が生まれてから必死に父親になるしかないんだな

もしかして、子供に父親にしてみらうのかもしんないな

(時計を見て、ペットボトルのお茶を飲む)

P 4

それからもう、必死で、いろいろ調べました

ダウン症の人には芸術的な才能のある人もいて、金澤翔子さんのように天才書家として
世界的に活躍している方もいるし

映画『チョコレートドーナツ』に主演してるハリウッド俳優もいる。両親の愛情に支えられ、専門学校や大学まで進んでいる子供もいる。ヨーロッパのある国ではダウン症の子供が生まれると天使が生まれたと言って町中で祝福してみんなで育てると言うことも。

実際、ダウン症の子供を持つご両親にも会いました

残念なことに、中には子供の障害を母親のせいにして逃げるように離婚した父親もいると知りました。でも、俺は、俺は逃げません

「未来の俺、頑張っているか？ファイト」自分を励ましちゃった

ある母親は、こう言いました。ダウン症の子供は成長が遅いからこそゆっくりと子供の成長を楽しめると

そして、性格的にもおとなしく他人を傷つけたり、恨んだり、ねたんだり敵意、悪意そういう感情もなく

本当に天使かもしれないって

また、ある父親は、何、天使どころかイタズラ好きで悪魔だよ、といいならその目は、優しく笑っていました。

そして、こう言いました、他の子と同じ様に、子供を愛するという

ごく普通の強くて小さな勇気を持ち続ければいいんだと

知ることは、理解すること。知ることの大切さ、知らないことの恐ろしさ知らないことから、いろいろな偏見や差別が生まれてくる事を知りました

ダウン症とわかった両親の9割が中絶する

それを否定することができません、それぞれが、それぞれの事情があつて
悩み抜いた末それぞれの「正しい」結論を出したと思うからです

今、俺が言えるのは、出生前診断は障害のある子供を排除するためではなく
その子が生まれてくるまでの間に両親がその子を愛し、そして愛し続ける
覚悟を決める時間を作るためにこそあるんじゃないかと考えています
俺がそうだったように

(時計を見て、分娩室を伺う、お茶を飲む)

P 5

不安もありました、それは障害がある子供を持つ親が誰しも抱える悩みでした
きつと君より早く俺は天国へと旅立つでしょう

なんか文学的過ぎるな、俺たちが亡くなった後、君が一人で生きていけるか

でも、今は、いつか自分達が亡くなったあと、母さんと二人で「天国の望遠鏡」で君を見た時
君が元気に笑ってる。自由に、明るく、そして幸せに生きている
そんな世界に俺達が、変えていけばいいんだと、今は思っています

この半年間、父さんと母さんは、命について、愛するという事について、語りあいました
君の存在が、俺たち夫婦を強くしたのです。

これも君のおかげです、だから、だから、早く君に会いたいです。

ただ、今でも、気になってる事が一つだけあります
ダウン症の子供の中には他の障害を併発している場合もあつて

生まれてすぐ、産声を上げる事もなく亡くなってしまいう子供もいるという事です。
どうか、どうか、無事に生まれてきて下さい
それから最後に

（動き止まり 長い間 ここまで男の心の声が聞こえる 実際音響で流す必要は無い）
「偽善者。どこからか声がする。俺の声だ。どういう意味だ。そのままの意味だ。」

いい父親ぶってみてもやっぱり無理なんだ。受け入れられないんだ。受け入れたくないんだ。自信なんてこれっぽっちもないんだ。生きて産まれてこなければいいと思ってるんだ。

そうすれば誰も悪くならないで済むから。そうして彼女を慰めれば

いい夫でいられるから。俺は偽善者だ。うそつき。子どもの声。キミの声か。

どういう意味だ。そのままの意味だ。

早く会いたいわって言うてくれたからがんばって産まれてきたのに。

僕はいららないんだね。僕は愛されていないんだね。

僕は産まれてこない方が良かったんだね。

僕は普通の子どもじゃないから。

僕は障害があるから。僕はダウン症だから。俺はうそつきだ。」

（ビデオカメラを止めようとするが

思い直してビデオカメラに向かって）

やっぱりこのビデオは編集しないで全部見てもらうことにします

俺の強さも弱さも、そして、迷いなんかも、そんなもの全部ひっくるめて

伝えたいからです・・・それから最後に

（言いかけた時、分娩室から大きな赤ん坊の泣き声が聞こえる

安心と喜び色々な感情が渦巻く
慌てて立ち上がって分娩室に向かおうとするが
思い直ってまたベンチに座り胸を張って笑顔で
ようこそ、この世界へ

(分娩室に向かう)

溶暗

井伏銀太郎 ホームページ

<http://sendard.jp>